

大阪市立 長吉出戸 小学校



住所 〒547-0011 大阪市平野区長吉出戸 3-1-43

連絡先 ☎ 06-6707-8500

☎ 06-6799-0339

校長 粉川 明治

開校 昭和 48 年度

URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751737>



正面の2本のフェニックスが印象的な学校の外観です。子どもたちの登下校や、来校者の門は、この正門1つしかなく、オートロックとインターホンで、安全対策に取り組んでいます。

教育目標

「学ぶことに喜びを持ち、心豊かな、たくましい子どもを育てる」

教育方針

「よく学び 仲よく 元気に」

運営に関する計画

【中期目標】「学ぶことに喜びを持ち、心豊かな、たくましい子どもを育てる」

【安全・安心な教育の推進】

○ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

・違いを認め合う子どもを育てることにより、「安心して過ごせる学校づくり」をする。令和11年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。(令和7年度全国学力・学習状況調査 75.6%)

○ 基本的な方向2 豊かな心の育成

・互いを思いやる子どもを育てることにより、「楽しい学校づくり」をする。令和11年度の全国学力・学習状況調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%にする。(令和7年度全国学力・学習状況調査 63.4%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

・「話し合い活動」を通じて、学習内容の深化を図る。令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を83%にする。

たりすることができていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を83%にする。

(令和7年度学力経年調査 平均75.5%、令和7年度末校内調査 平均82.1%)

○ 基本的な方向5 健やかな体の育成

・体育の学習を工夫すると共に行事を通じて、運動能力を高める。

令和11年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和7年度より1ポイント向上させる。(令和7年度 男子+2.2ポイント、女子-0.1ポイント、平均+0.6ポイント)

【学びを支える教育環境の充実】

○ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

・ICTを活用した教育を推進することで、

令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」の項目について、週3回以上と回答する児童の割合を、58%以上にする。

(令和7年度学力経年調査 平均54.5%、令和7年度末校内調査 データなし)

○ 基本的な方向7 人材の確保・育成と士やかな組織づくり

・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準Iを満たす教員の割合を88%以上にする。(令和7年度(2月時点) 教員の時間外勤務時間の状況 83.3%)

【年度目標】

【安全・安心な教育の推進】

○ 全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を77%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を74%以上にする。

○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

○ 小学校学力経年調査における「自分とはちがう考えの人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかを分かろうとしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

- ・日常的に情報交換し、児童理解を深め、取り組みを検討する。
- ・不登校・遅刻の解消に向けて、児童の実態を的確に把握し、適切な対応につなげていく。
- ・防災・減災教育や防犯・交通安全教育などを通じて、自他の命を守るための行動力を高める活動を取り入れる。
- ・児童の自己有用感・自己肯定感の改善に向けた、道徳教育・キャリア教育の取り組みを行う。
- ・自らがかけがえのない大切な存在であると実感できる人権教育の取り組みを行う。
- ・教員の障がいに対する理解を深め、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を進める取り組みを行う。
- ・異学年交流を基にした学習活動を積極的に取り入れる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。

○ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。

○ 小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%にする。

○ 年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻におきることが大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

・国語科における基礎学力向上に向けた取り組みを行う。

・算数科における基礎学力向上に向けた取り組みを行う。

・主体的・対話的で深い学びを推進するために、互いに意見や考えを出し合い、協同して考えを深めたり広げたりする学習場面を設定する。

・図画工作科における児童の鑑賞力を育成するために、教員の指導力向上を図る。

・児童が体を動かすことが好きになるような機会を設定する。

・毎日朝食をとる習慣を身につけさせるように指導する。

・規則正しい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)を身につけさせる。

【学びを支える教育環境の充実】

○ 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を56%以上にする。

○ 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

○ 保護者アンケート(新設)における「学校はホームページや学校だより、学年だより等で情報を発信している」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を70%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

・校内において学習者用端末を活用する取り組みを行う。

・学習活動や学校行事等において低・中・高学年単位での連携を積極的に進め、業務の効率化と個々の教員の負担軽減を図る。

・日々の教育活動や取り組みについて、情報発信を積極的に進める。

校長先生からのメッセージ

本校は、「よく学び 仲よく 元気に」の校訓を教育理念とし、昭和48年に創立されました。創立以来、「学ぶことに喜びを持ち、心豊かな、たくましい子どもを育てる」を教育目標に掲げ、めざす子ども像を「考えて行動する子」、「違いを認め合う子」、「命を大切にできる子」と設定し、しっかりと子どもと向き合う教育活動に取り組んでいます。

学校は地域コミュニティの中心であり、「地域の皆様と共にある存在」として、子どもたちが「通いたい学校」、地域・保護者の皆様が「通わせたい学校」、教職員が「働いてよかった学校」となるよう学校運営を行っています。

教育には、「不易」と「流行」の2つの面があります。国際化・情報化など社会の変化に対応できる能力を習得させるのは「流行」の部分ですが、相手を思いやり、相手の立場に立って行動できる態度を育んだりしていくことは、いつの時代にも変わらない教育の「不易」の部分です。これら双方の能力・態度を身につけた子どもを育てていくために、全教職員で邁進しています。社会の変化に対応できる力を身につけさせるためには、まず、学習規律を整えると共に「読む・書く」力や、「計算」力などの基礎学力の定着が必要になります。そのうえで、豊かなコミュニケーションを実践するための理解力・思考力・表現力を高めていきます。そこで、今年度は、自己肯定感や忍耐力、協調性、コミュニケーション能力といった、数値化できない個人の人間性や内面的なスキルといった非認知能力を育むためにも、特別活動やポジティブ行動支援の推進に力を入れています。また、昨年度から研究教科を図画工作科として研究を進め、「創造性」や「感性」、「思考力・表現力」の向上に取り組む、将来のあらゆる学力や人間性の土台となる能力を培っています。

校長 粉川 明治

R7年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	理科	平均正答率(%)
57	53	47	

●結果と概要／

国語科は、平均正答率は57.0%で、全国、大阪市平均を下回った。学習指導要領の内容では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国、大阪市平均を上回り、「書くこと」についても全国、大阪市平均とはほぼ同等だったものの、他の事項では全国、大阪市平均を下回り、特に「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」では、その差が大きかった。評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断・表現」共に、全国、大阪市平均を下回った。

算数科は、平均正答率は53.0%で、全国、大阪市平均を下回った。学習指導要領の内容では、全て、全国、大阪市平均を下回り、特に「測定」「変化と関係」「データの活用」ではその差が大きかった。評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国、大阪市平均を下回った。

理科は、平均正答率は、47.0%で、全国、大阪市平均を下回った。学習指導要領の内容では、全てで全国・大阪市平均点を下回り、特に「生命」ではその差が大きかった。評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国、大阪市平均を下回った。

児童質問紙は、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は98.3%で、全国平均を1.6ポイント上回った。しかし、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は100.0%で、全国、大阪市平均を上回った。自己肯定感、自己有用感に関わる質問では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について、肯定的な回答が8割を超えたものの、全国、大阪市平均を下回った。また、「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答の割合は全国、大阪市平均を大きく下回った。

●取組の成果と課題／

【国語】 「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、漢字を文章の中で正しく使うことができる児童が多く、「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」については、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段階をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる児童が多かった。しかし、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと」については、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが難しい児童が多く、「読むこと」については、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることが難しい児童が多かった。また、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解して使うことが難しい児童が少なくなかった。

【算数】 「変化と関係」の領域では、伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことが難しい児童が多かった。「測定」の領域では、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することが難しい児童が少なくなかった。また、「データの活用」の領域では、目的に応じて適切なグラフを選択して増減を判断し、理由を言葉や数を用いて記述することが難しい児童が多かった。

【理科】 B区分「生命」の領域では、花のつくりや受粉についての知識が身に付いていない児童が少なくなく、発芽するために必要な条件についても、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することが難しい児童が多かった。また、A区分「エネルギー」「粒子」の領域では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていない児童が多かった。

【児童質問紙】 特別の教科道徳の時間を中心に、学期に1回以上いじめについて考える機会を設定し、人権教育の計画的な実施を継続していることで、児童のいじめに対する意識はさらに高まった。しかし、体験的な学習活動の充実を図り、たてわり活動等の異学年交流を積極的に実施しているものの、児童の自己肯定感や自己有用感は向上しているとは言えない。

R7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	1724	19.22	34.89	40.00	43.00	9.33	175.17	23.94	55.12
女子	16.50	18.14	36.64	35.95	31.36	10.14	160.33	13.62	53.10

●結果と概要／

男子・女子ともに、握力・立ち幅とび・ソフトボール投げが、全国平均、大阪市平均を上回った。またこれに加えて男子は長座体前屈、50m走、体力合計点が全国、大阪市を上回った。女子は上記の3種目以外は全国、大阪市平均を下回り、特に20mシャトルランは全国、大阪市との差が大きかった。体力合計点は、全国平均には届かなかったものの、大阪市を上回った。児童質問紙「運動やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答は、男子では全国、大阪市を上回ったものの、女子では全国、大阪市に届かなかった。運動やスポーツへの関わり方に関する質問では、男女ともスポーツを「すること」について肯定的な回答が多かったが、「みること」については男子の肯定的な回答が全国、大阪市を大きく下回った反面、女子では逆に上回った。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子は26.4%で全国の9.8%、大阪市の12.7%と比べて多かったが、女子は11.8%で全国の17.3%、大阪市の20.0%と比べて少なかった。

●取組の成果と課題／

今年度は、より多くの児童が運動に興味を持って運動に取り組むことができるように、学期ごとの運動集会の内容を工夫し、1学期「大なわとび集会」、2学期「ドッジボール集会」、3学期「鬼ごっこ集会」を設け、朝の時間を使って多様な運動に触れることができるように学校全体で取り組んだ。これらの取り組みを行った結果、男子では、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的な回答が昨年度より5.2ポイント増え、女子では2.0ポイント増えた。調査では、男女ともに、8種目中3種目は全国、大阪市を上回り、男子は8種目中5種目と体力合計点が全国、大阪市平均を上回った。これらの結果から、運動に親しむ取り組みによる成果が見られるものの男女差があり、今後は特に女子の運動・スポーツに対する興味、関心を喚起する取り組みが必要と考える。また、夏季の猛暑期間の児童の運動の場の確保についての工夫が必要であるとする。

学校の特徴

本校は、1年生から6年生が2学級、全校で子どもの数が約260人の中規模程度の小学校です。

子ども達は、素直で明るく、人懐っこい子が、たくさんいて「楽しい学校」です。

校舎配置・教室配置はわかりやすく、エレベーターが設置され、バリアフリーで移動できます。

管理作業員をはじめ、教職員が「安心・安全な学校」となるように、校内の整備・美化に努めています。



体験活動

各企業・団体が実施する出前授業等に積極的に応募し、ゲストティーチャーとして来校していただき、子どもたちに多様な体験をさせています。



子どもたちは、教室で教科の学習をしている時とは違った顔を見せ、また、新たな知識も身につけることができます。

- ・芸術鑑賞
- ・明治・カルビー「食育」
- ・ダスキン「お掃除教室」
- ・大阪市水道局「水道教室」
- ・トップアスリート「夢・授業」など

委員会活動

健康 給食 新聞・掲示 運動
図書 放送 環境 運営・代表

クラブ活動

運動A 運動B 室内運動 まんが
科学・工作 昔遊び・室内遊び



広い運動場

子どもの人数のわりに、広い運動場で、体育の学習時間や、休み時間に、思い切って体を動かして、体力づくり・仲間づくりに励んでいます。

日当たりや水はけがよく、雨が降っても、すぐに運動場を使うことができます。

